平成　27　年度

事務事業評価シート

（社会教育・スポーツ課）

総合評価ランク

A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

野辺地町教育委員会

目　次

1　一人一人の主体的な学習と社会参加の推進
（　1　）　のへじ元気講座　・・・・・・・・・　1
（　2　）　ハッチョウトンボ観察会　・・・・・・・・・　2
（　3　）　青少年ホーム教養講座　・・・・・・・・・　3
（　4　）　文化賞授与式　・・・・・・・・・　4
（　5　）　馬門公民館教養講座　・・・・・・・・・　5
2　次世代を担う青少年の育成
（　1　）　子ども会事業　・・・・・・・・・　6
（　2　）　ふるさと探偵団　・・・・・・・・・　7
（　3　）　ふれあい通学合宿　・・・・・・・・・　8
（　4　）　ふれあい教育フェスティバル　・・・・・・・・・　9
（　5　）　在学青年ボランティア　・・・・・・・・・　10
3　地域を支える人材の育成
（　1　）　生涯学習大学　・・・・・・・・・　11
（　2　）　男女共同参画職員研修　・・・・・・・・・　12
4　学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上
（　1　）　家庭教育推進事業　・・・・・・・・・　13
（　2　）　いのちのお話出前講座　・・・・・・・・・　14
5　社会教育推進のための基盤整備
（　1　）　各種会議の開催　・・・・・・・・・　15
　社会教育委員会議、馬門公民館運営審議会、青少年育成町民会議
　勤労青少年ホーム運営会議、青少年健全育成推進協議会
（　2　）　社会教育団体の支援　・・・・・・・・・　16
　子ども会育成連絡協議会、ボーイスカウト育成会、連合ＰＴＡ
　地域婦人団体連合会、文化振興協議会の活動支援
6　生涯スポーツの普及・振興
（　1　）　スポーツ推進委員会議の開催及び町各種のスポーツ事業への活用　・・・・・・・・・　17
（　2　）　町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰　・・・・・・・・・　18
（　3　）　健康ウォーターマラソンスタンプラリーの開催　・・・・・・・・・　19
（　4　）　青森県民スポーツレクリエーション祭参加　・・・・・・・・・　20
（　5　）　学校体育施設の開放促進　・・・・・・・・・　21
（　6　）　総合型地域スポーツクラブの検討　・・・・・・・・・　22
（　7　）　水泳教室開催　・・・・・・・・・　23
7　青少年スポーツの振興
（　1　）　スポーツ少年団への支援と育成　・・・・・・・・・　24
（　2　）　町営球場開設記念兼ライオンズクラブ旗争奪中学校野球大会の支援　・・・・・・・・・　25
（　3　）　青森県小学生スキー大会の開催　・・・・・・・・・　26
8　競技スポーツの推進
（　1　）　青森県民駅伝競走大会選手強化支援　・・・・・・・・・　27
（　2　）　町体育協会活動支援　・・・・・・・・・　28
9　スポーツ情報の充実
（　1　）　スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存　・・・・・・・・・　29
（　2　）　スポーツカレンダーの発行　・・・・・・・・・　30
10　社会体育施設・設備の整備・運営
（　1　）　体育施設の総合的な修理修繕と運営　・・・・・・・・・　31
（　2　）　体育施設利用団体会議開催による有効活用意見の聴取　・・・・・・・・・　32
11 キャリア教育の推進
（　1　）　チャレンジショップ　・・・・・・・・・　33

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	のへじ元気講座	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	参加者の自主的な学習意欲を促進し、相互交流・社会貢献を通して地域活性化を図り町を「元気」にすることと、参加者一人ひとりが生きがいを見つけ「元気」な生活を送るための心と体の健康づくりを目的に実施する。年間受講料1,000円を徴収しその中から講師への謝金等を支払っている。 収入　受講料・昼食代・繰越金　　147,632円 支出　講師謝金・昼食代　　137,379円
事業の対象	成人（年８回、受講者７５名、延べ受講者２３４名）

事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	0 千円	138 千円	75 千円

事業の実績・成果等（数値）	６月２３日（火）講話「なぜ今の人はスマホを拝んでいるのか」　講師：野辺地町教育委員会 淺利能之教育長 ７月２３日（水）ボランティア活動「清掃ボランティア」　野辺地ホーム清掃 ９月３０日（水）町外研修「青森市」八甲田山雪中行軍遭難資料館・青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸　施設見学 １０月１５日（木）音楽教室「音楽のちから　やわらかな心で」　講師：ソプラノ歌手　黒木庸子氏 １１月１０日（火）運動教室「すぐにはじめようロコモ予防～足を強くする～」講師：ボディトラスト高坂真哉氏 １２月９日（水）特別講座「エンディングノート」男女共同参画町民研修会へ参加 １２月１５日（火）　閉講式「お楽しみ会・余興・DVD鑑賞」 １２月１７日（木）　特別講座「昔遊び会」野辺地小学校　講堂

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
	☐ 十分必要である	■ おおむね必要である	☐ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
	☐ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
	■ 十分できている	☐ おおむねできている	☐ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
	☐ 達成できている	■ おおむね達成できている	☐ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	説明：平成２６年度まで実施していた「女性学習講座」「にこやか生きがい教室」を統合した新講座である。以前の講座受講生ほか、新たに参加する方含め多様な方が本講座へ参加している。 課題：女性向け講座が前身であるため受講生は全て女性であるが今後男性の参加を促進する内容を検討する。	
事業の方向性	☐ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する　☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見

男性向け男性主体の講座を考えてみてはどうか。
平均して３０名の参加は素晴らしい。
男性向け、女性向けと最初から分けて考えてみては、内容も違ってくるのでは。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ハッチョウトンボ観察会	担当者名	新渡秀嗣

事業の目的・内容	青森県レッドデータのＡランクに指定されている「ハッチョウトンボ」の生息地を保護し、自然環境を保護するとともに、生態について学ぶことを目的として観察会を実施。 昨年度に引き続きポールウォーキングを観察会後に実施したほか、今回は小中学生を対象としたふるさと探偵団と協働で実施した。			
事業の対象	一般			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	5 千円	12 千円	15 千円

事業の実績・成果等（数値）	野辺地町スキー場　あったかハウス前にあるハッチョウトンボ生息域を、ロープで侵入を規制（６月～11月）し、トンボが生息できる環境づくり・保全を行っている。 今年度は、文化財保護審議委員の高沢岩男氏を講師に招き観察会を実施した。 また、運動指導として鹿内　ひとみ氏を講師に運動不足解消を目的としたポールウォーキングを観察会終了後に実施し、多くの人に関心をもってもらえる内容とした。 開催日：平成２７年　７月１１日 参加者：町内　９名、町外　８名

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	ポールウォーキングを同時開催したことで、これまでハッチョウトンボへの関心の薄かった人々も観察会に取り込むことができた。 学校と連携して、課外授業に取り組むなどの工夫が必要。 平成２８年度には、町内小学校の授業の一環として観察会を実施する等により、町内児童への周知と、環境保護精神と郷土愛の醸成を図る。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見

子どもたちの観察する機会があってよい。郷土愛は小さいうちから育てていくのが良いと思う。
ＰＲ不足、参加者を増やしていけたらと思う。
一般への情報発信をもっとしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青少年ホーム教養講座	担当者名	新渡秀嗣

事業の目的・内容	趣味と教養を高めるとともに、仲間づくりのため開催する。 青少年ホーム　７月～１１月　５回 １１月以降は受講生のみの自主活動を行っている。			
事業の対象	成人			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	・青少年ホーム講座 組紐（５人） 学習の成果を中央公民館文化祭で展示、発表 ・ホーム　受講料3，000円×人数分を講師謝金として支払い

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	□ おおむね必要である	■ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	□ おおむねできている	■ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	発表や作品の内容が年々充実している。 受講生の中から、次の指導者が育ってほしいが育っていない。 今後、ホームの講座については、平成２８年度を持って廃止する方向で検討していく。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　■ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		C	C	C	C	C	B

評価委員意見

個人的な集まりとなっているのでは。
上手く公民館の講座に溶け込ませるような工夫がほしい。
みんなの教室へ移行するならば、事業完了。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	文化賞授与式	担当者名	飯田満

事業の目的・内容	文化活動において優れた業績をあげ、町の文化振興に寄与した方を表彰する。			
事業の対象	町民一般			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	53 千円	93 千円	116 千円

事業の実績・成果等（数値）	・１２月中旬　小中学校、関係団体に推薦依頼 ・２月上旬　　表彰審査会（７人）、受賞通知（表彰者） ・２月２４日　授与式　１６：００～１７：００　中央公民館 ○町文化賞 　　文化功労賞（個人）２人（団体）１団体 　　文化奨励賞（個人）５人（団体）３団体 ○教育委員会文化賞 　　文化優秀賞（個人）６６人

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	作品・展覧会での入賞作品を展示可能か検討する。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	A	A	A	B

評価委員意見

評価される場があって次への意欲へつながる。
このような賞があるというＰＲをしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	馬門公民館教養講座	担当者名	飯田満

事業の目的・内容	趣味と教養を高めるとともに、仲間づくりのため開催する。 ６月～１０月　　学習成果を馬門コミュニティ文化祭で展示、発表			
事業の対象	成人			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	受講者負担（38）　千円	受講者負担（38）　千円	受講者負担　千円

事業の実績・成果等（数値）	・講座内容（人数）　ダンス（１１人）、着付け（１１人）、手芸（３人） ・受講料　１，５００円 ・講師謝金は、受講料で支出

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	発表や作品の内容が年々充実している。 受講生の中から、次の指導者が育ってほしい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見

次の指導者の育成を考えていただきたい。
使用頻度が高いし馬門のコミュニティの場だというのが、よく分かる。
馬門のコミュニティは根強いものがある。
次の指導者の育成とあるが、はたして、今の指導者がそのように考えているのかは現場との差があるような気がする。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	子ども会事業	担当者名	新渡秀嗣

事業の目的 ・内容	・子ども会の加入状況 幼児１名、小学生２１６名、中学生１２名　計２２９名加入 ・実施事業について わくわくサマー体験（夏休み）、レクリエーション大会（秋期）			
事業の対象	子ども会　会員			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	（子ども会予算）297 千円	（子ども会予算）295 千円	（子ども会予算）315 千円

事業の実績 ・成果等 （数値）	・子ども会わくわくサマー体験 平成27年8月1日　場所：小川原湖 子ども会員　６２名参加（うち子ども３７名参加） ・子ども会レクリエーション 平成27年11月15日　場所：青少年体育センター 子ども会員、保護者　９０名参加

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	平成２６年度まで実施していた宿泊キャンプ事業を今年度から、公立小川原湖青年の家を活用した日帰りの体験事業へと変更した。これにより参加人数の増のほか、準備等に係る事務の効率化も見られた。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	B	A	B	B	B

評価委員意見

子ども会に加入させると親も手伝わなければならないというめんどくささを感じる。
そのような雰囲気を解消させたい。
子ども会事業のあるところ無いところがあるので、リーダー育成を図ってほしい。
今年、小川原湖へ行った子どもたちを見ているとすごく楽しそうだった。
日帰りというところが、良くも悪くも引率者からすれば楽だと思うが、育成の意味ではリーダー研も無くなったということなのでＡには出来ない。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふるさと探偵団	担当者名	新渡　秀嗣

事業の目的・内容	野辺地町の将来を担う子どもたちに、野辺地町の自然の豊かさやそれに携わる方々の苦労、功績を伝えることで、野辺地町を誇りに思い、ますます愛する心を育む。 また、保護活動や自然体験を通して、自然を大切に思う心やコミュニケーション能力の育成を目的に平成２７年度はハッチョウトンボをテーマに実施した。			
事業の対象	小学３～中学生			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	0 千円	2 千円	10 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２７年６月　６日（土）　１３：００～１５：３０（事前研修） 平成２７年　７月１１日（土）　８：５０～１２：００（観察会） ◆６月６日（土）参加者　野小６名、若小１０名、野中３名　計１９名 はじめに、中央公民館にて、スライドショーやクイズ、寸劇を用いて、ハッチョウトンボとは何か、なぜ草刈りをしなければいけないのか、どのような人が携わって保護活動をしているのかを伝え、保護活動に対する意欲を上げた。その後にスキー場に向かい、実際に鎌をもって子どもたちが草刈りを行った。 結団式にて、前回の復習や、今回のテーマ（いろんな種類のトンボをみつけよう）を伝えた。 ◆７月１１日(土）参加者　　計１２名 「第５回ハッチョウトンボ観察会×ポールウォーキング」の参加者と一緒に観察を行い、たくさんの珍しいトンボを見ることができた。 その後、まとめ作業で「調査報告書」を記入し、最後に棒パン作り体験を行った。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	全体を通しては、参加した子どもたちには、自然と触れ合うことを楽しんでおり、また、こちらが狙いとした「ハッチョウトンボの保護やそれに携わる人の思い」や「郷土愛」を伝えることができた。また、観察会当日も天気に恵まれ、多くの種類のトンボ見ることができたため、子どもたちの印象に残る事業となったと考えられる。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	B	B	B	B

評価委員意見

興味をそそられるようなテーマを考えてほしい。
ＰＲの仕方について工夫が必要。
年々参加者が減ってきていることが、興味のわく内容を考えてほしい。
毎年、同じような内容なので、ワクワクするような工夫をしてほしい。
小学生と中学生の参加者に対してひとつのテーマで実施するには年齢差があるのでは。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふれあい通学合宿	担当者名	飯田満

事業の目的・内容	２泊３日で宿泊して通学をし、助け合って活動することで、身の回りのことなどの居・食・住を自分でできるようにし、自立心の養成や団体生活を通しての交流を図ることを目的に実施する。			
事業の対象	小学生、中学生			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	124 千円	165 千円	160 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２７年９月３日（木）～５日（土） 野辺地町中央公民館 ９月３日…開会式、買い物、夕食調理、入浴、ｻｯｶｰﾊﾟﾌﾞﾘｯｸﾋﾞｭｰｲﾝｸﾞ ９月４日…朝食調理、夕食調理、入浴、ダンス教室 ９月５日…朝食調理、館内清掃、流しソーメン、感想文作成、閉会式 参加人数：２８人（野小１０人、若小１３人、野中５人）

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	募集人員を越えての申込みがあった。 中学生もリピーターとして申し込みがあり、今後も中学生の活動場所を増やしていきたい。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	B	A	A	B

評価委員意見

女子の申込みが多いため、その対応について考えてほしい。
防災意識を高めるためにも経験させてほしい。
職員、ボランティアが非常に頑張っている。
もっと、定員を増やせるよう工夫してほしい。
パブリックビューイングもあったのでちょうど良いプログラムだ。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	ふれあい教育フェスティバル	担当者名	飯田満

事業の目的・内容	毎月２０日「ふれあい教育の日」「家族ふれあい読書デー」を啓発する行事。読書や読み聞かせをとおして、人と人とのふれあいやコミュニケーションを深める機会とする。			
事業の対象	小学生、中学生、成人			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	126 千円	198 千円	202 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２７年１１月２１日（土）　　９：３０～１２：００ 中央公民館　　参加者：１００名 ・家読テーマソング披露（みんなの教室　しおさいコーラス） ・「第２回家読標語コンクール」受賞者表彰（小、中、高・一般の部） ・家読寸劇（おはなしサークル　虹色の会） ・ワクワク、ドキドキ読み聞かせタイム（子ども司書、野高家庭クラブ） ・家読及び学校の読書活動における事理発表（家庭、学校） ・お楽しみバルーンアート ・読書講演（八戸学院短期大学　客員教授　三村三千代氏）

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	読書団体と連携し、運営も共に行うことができた。 団体発表、家庭・学校での取組みを紹介する行事であったが、今後は、参加者の増加が望まれる。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見

関係者の集まりという感じもする、幅広く興味も持ってくれるような工夫が必要。文字に触れる機会をもっと提供してほしい。
緊急メールを利用して保護者あてにお知らせしてはどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	次世代を担う青少年の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	在学青年ボランティア会	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	高校生（野辺地高校・野辺地西高校）を対象としてボランティア意識を醸成することを目的として実施。 野辺地高校７名　野辺地西高校６名			
事業の対象	高校生			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	45 千円	24 千円	15 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２７年７月～平成２８年１月 収入　　補助金　15,000円　　支出　　事業費　23,870円 ７月１９日（日）　「常夜燈フェスタ」　商工会青年部ブース運営補助 子ども向けブースの運営補助を行い、来場した子どもとの交流を図った。 １１月２１日（日）『野辺地町ふれあい教育フェスティバル』バルーンアートコーナー 来場した子どもへバルーンアートの製作指導を実施した。 1月３０日（土）『一人暮らし老人宅訪問事業』 各宅を訪問し除雪ボランティアと蒸しパン配布を実施し地域の方と交流を図った。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	説明：ボランティア活動の場の提供と、地域住民との交流を図ることが出来ている。 課題：年々部員が減少している。限られた人数の中で高校生がより活躍できる場、内容が求められる。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見

お手伝い感覚ではなく、高校生が自ら考え実施するような取り組みとしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	地域を支える人材の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	生涯学習大学	担当者名	飯田満

事業の目的・内容	体系的な高度な学習内容の講座を開設し、町民の生涯学習及び社会参加活動による生きがいの創造を推進するとともに、学生が地域活動のリーダーとして活躍することを目指し実施した。 平成５年度事業開始し、２２年目			
事業の対象	成人（年間登録制）			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	受講者負担（78）　千円	受講者負担（88）　千円	受講者負担（122）　千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２７年７月～１２月　１８：３０～２０：００　図書館他 受講料　２，０００円 ①『野菜と食育』　㈲渋谷種苗店　代表取締役　澁谷幸雄氏 ②『一燈照隅～先哲に学ぶ人間学～』青森県営農大学校　前川原良氏 ③『「正しい」ってどういうことなのだろう』八戸工業大学　准教授　高橋史朗氏 ④町外学習（おいらせ町ふるさと学習塾に参加）脳科学者　茂木健一郎氏 ⑤「オリンピックを通して」前ソフトボール日本代表監督　齋藤春香氏 ⑥「日本語の魅力と言葉の力」八戸学院短期大学　教授　茂木典子氏 ⑦「ふれあい教育フェスティバル」読書講演　八戸短期大学　客員教授　三村三千代氏

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	平成２７年度で２２年目を迎え、新規参加者の増加や学習の継続がされている。今後も、今日的課題を考えるテーマを提供していきたい。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	A	A	A	B

評価委員意見

内容的の割に非常に安い。
先日、山田スイッチさんが来て下さり、大変楽しかった。
参加した方々が、地域で意識を持って学んだことを外へ活躍して欲しい。

事務事業評価シート

施　策　名	地域を支える人材の育成	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	男女共同参画研修会	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	男女共同参画への意識向上を図るため実施する。 ・男女共同参画職員研修会 平成２７年１０月１３日（火）　１３：３０～１５：３０　議場 「カジダン・イクメンが野辺地町の未来をかえる」 ・男女共同参画町民研修会 平成２７年１２月９日（水）１３：３０～１５：３０　中央公民館ホール 「エンディングノート～人生の最期を考える～」			
事業の対象	庁内職員及び町民			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	22 千円	40 千円	40 千円

事業の実績・成果等（数値）	・職員研修会 町の男女共同参画基本計画推進のために各課より補佐以上の職員１名を含む２名以上の参加を要請した。 参加人数　２７名（男２０名、女７名） ・町民研修会 広報への掲載ほか、男女共同参画ネットワーク加盟団体や教育委員会事業で周知した。 参加人数　６５名

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	説明：男女共同参画の意識を啓発できた。 課題：男女共同参画は内容の理解がされにくいため、必要性や当事者意識をもってもらう工夫が必要である。なお現在は人材育成の観点から教育委員会で当研修会を実施しているが男女共同参画は防災・雇用・農林水産業・保育・障害者支援など幅広い分野となっているため他課との連携も必要である。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		C	B	C	C	D	B

評価委員意見

議場でなく研修場所を変えてみてはどか。
ＰＲ不足である、楽しいと思わせるひきつけ方を工夫してほしい。
どこの課が実施するにせよ、町全体の考え方骨子がしっかりしていて進めてほしい。良くわからない。
進化が見られない。野辺地らしさを見せてほしい。
根付いてない、野辺地は非常に遅れている。
情報発信が少なすぎる。
他の課や民間、町民とも連携する取り組みを活発にしていかないと、このままでは危機感を感じる。
教育委員会で担当することが妥当なのか？

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	家庭教育推進事業	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	参観日や保護者会等の保護者が多く集まる機会に保護者または園児・児童を対象として家庭教育に関する講座を実施している。実施場所は小中学校・幼稚園・保育園。 開催時期　平成２７年７月～平成２８年２月 参加者数　約1,100名（園児・児童含む）			
事業の対象	幼児・児童とその保護者			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	60 千円	49 千円	70 千円

事業の実績・成果等（数値）	①７月１日（水）若葉小「親子音楽鑑賞教室」　講師　海上自衛隊大湊音楽隊 ②７月７日（火）馬門小「おや・おや教室」　講師　三沢市市議会議員　野坂篤治氏 ③７月１０日（金）カトリック幼「親子でお話を楽しむ会」講師　野辺地町立図書館　鳥谷部則子氏 ④９月２５日（金）わかば保「親子で３B体操」講師　浅野裕子氏、織田恭子氏 ⑤１０月４日（金）のへじ保「親子で３B体操」講師　浅野裕子氏、織田恭子氏 ⑥１２月１１日（金）野辺地小「これでいいのかな？自分の生活」講師　三戸町教育委員会　馬場幸治氏 ⑦２月１２日（金）野中「薬物乱用防止教室」講師　高野薬局　高野修司氏

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	説明：親子のふれあいの場の提供や親子間についての講話を実施。親子一緒に参加する講座を多く行ったため、より保護者が参加している。 課題：教育委員会側が実施主体（学校・保育園・幼稚園）に対して、テーマや講師に関する情報を提供する体制づくりが必要。		
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見

町の教育振興基本計画で強調している内容とは、まだまだ改善の余地があるのかなと感じている。
施策で学校・家庭・地域の連携とあるが、もっと強化して欲しい。
親子の触れ合いは大事だと思う。

事務事業評価シート

施　策　名	学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	いのちのお話出前講座	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	町内３小学校合同で４学年とその保護者を対象に、男女の体の違いや妊娠・出産の知識を正しく伝えることで性と心の教育及び親子の絆を深めてもらうための講座を実施。 謝金　30,000円（消費税・交通費含む）			
事業の対象	町内４学年児童とその保護者			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	30 千円	30 千円	75 千円

事業の実績・成果等（数値）	対象：町内３小学校４学年とその保護者 人数：130人（児童102人・保護者19人・教員9人） 講師：青森県助産師会「いのちのお話プロジェクトあかり」 会場：馬門小学校　講堂 （会場校は馬門→若葉→野辺地の順に持ち回り） 健康づくり課を通して町内在住妊婦へ、講座内で胎動の心音を聞かせていただく協力を要請している。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	説明：児童への性教育指導のみならず、参加した保護者と児童が一緒に出産時を振り返る機会にもなっているとして高評価をいただいている。 課題：講座内で胎動を聞かせていただく妊婦を探すことが困難になってきている。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	A	A	A	B

評価委員意見

課題の改善へ向けてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	各種会議の開催	担当者名	飯田満

事業の目的・内容	国・町規則に基づき、各種委員会を委嘱。任期は２年。（職務は以下のとおり） 社会教育委員：社会教育事業への意見、社会教育関係者への助言 馬門公民館運営審議会委員：施設管理・事業への意見 青少年ホーム運営委員：施設管理・事業への意見（H28～廃止） 青少年育成町民会議：行政、警察、関係団体との意見交換 青少年健全育成推進委員（県知事委嘱）：青少年健全育成の啓発や各種活動			
事業の対象	各種委員			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	111 千円	175 千円	170 千円

事業の実績・成果等（数値）	社会教育委員会議　委員８名（5、3月） 馬門公民館運営審議会　委員８名（6月） 勤労青少年ホーム運営会議　委員８名（6月） 青少年育成町民会議　委員１５名（7、2月） 青少年健全育成推進協議会　委員８名（7月）

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	委員の若返りを図り、活発な意見交換の場としていきたい。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価		千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
							B

評価委員意見

評価しづらい。除外しても良いと思う。
効果的な意見をもらって、活かしているのかと考えたとき、はたしてＡなのかと考えると、分からない。
空欄とする。

事務事業評価シート

施　策　名	社会教育推進のための基盤整備	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	社会教育団体の支援	担当者名	飯田満

事業の目的・内容	社会教育における青少年健全育成及び文化活動等を推進するため、団体が行なう事業について、補助する。また、団体事業を支援する。			
事業の対象	社会教育団体			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	415 千円	427 千円	427 千円

事業の実績・成果等（数値）	団体補助金　・子ども会育成連絡協議会88，000円　・婦人団体連合会28，000円 ・文化振興協議会104，000円　・連合ＰＴＡ100，000円 ・在学青年ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ会15，000円　・ピコロ30，000円　・文化少年団50，000円 ・子ども会、在学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱは教委で、ピコロ、文化少年団は公民館で事務局を務めており、体験活動の充実を図っている。 ・連合ＰＴＡでは、２４年度から緊急メールシステムに着手。教委では、経費を補助している。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	・緊急メールへの登録は、保護者の理解により、約９割が登録し、台風時の緊急連絡や行事連絡で活用されている。 ・各団体の活動者の世代交代が必要と思われる。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	A	A	A	B

評価委員意見

今後も継続して充実を図ってほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ推進委員会議の開催及び町各種のスポーツへの活用	担当者名	安村英彦

事業の目的 ・内容	スポーツ基本法に基づき委員がスポーツ推進委員協議会を組織し、町の体育振興・生涯スポーツの振興や、町民の健康づくり等への多岐に渡る協力を頂いている。 また。町スポーツ賞（教育委員会表彰）の審査へも携わっている。 支出　委員報酬　52,500円　　委員普通旅費　1,400円　　補助金　15,000円 　　謝礼　　6,600円（体力テスト看護師）		
事業の対象	野辺地町スポーツ推進委員　８人 野辺地町役場　第１委員会室		
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	85 千円	93 千円	235 千円

事業の実績 ・成果等 （数値）	１．上十三地区スポーツ推進委員連絡協議会への参加	H27.5.23
	２．県スポーツ推進委員中央研修会への参加	H27.5.23
	３．町スポーツ推進委員会議への参加：２回開催	H27.5.26　H28.1.28
	４．上十三地区スポーツフェスティバルへの協力（東北町）	H27.10.18
	５．町民体力・運動能力調査の実施（体力テスト）	H27.10.19
	６．青森県スポーツ推進委員実技研修会への参加	H27.11.28
	７．平成27年度スポーツ賞受賞候補者の審査	H27.2.3
	８．町体育協会理事とスポーツ少年団代表との懇談会を実施	H28.3.10

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない
自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている	
評価説明及び考察、課題	事業等での協力は、積極的である。 推進委員主催の軽スポーツ事業を企画運営し、スポーツ推進委員のＰＲを含め活動への取り組みが必要である。		
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了		

事務評価委員の評価

総合評価		千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
							B

評価委員意見

評価しづらい。除外しても良いと思う。
効果的な意見をもらって、活かしているのかと考えたとき、はたしてＡなのかと考えると、よく分からない。
空欄とする。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町スポーツ賞、教育委員会スポーツ賞の表彰	担当者名	安村英彦

事業の目的・内容	スポーツ競技大会において優れた成績をおさめた者を表彰し、もって野辺地町のスポーツの普及、振興を促進することを目的とする。			
事業の対象	野辺地町表彰規則による（町民他）			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	245 千円	330 千円	390 千円

事業の実績・成果等（数値）

平成２８年３月２４日（水）　１６：００～１７：３０

野辺地町中央公民館

支出　　記念品　262,818円　　消耗品費　13,206円　　印刷製本費　53,912円

県大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者及び、町のスポーツ振興に寄与した者を野辺地町スポーツ賞として表彰した。また、郡大会以上の大会で優秀な成績をおさめた者を野辺地町教育委員会スポーツ賞として表彰。
平成２７年度受賞者
町：スポーツ功労賞　２名　スポーツ大賞　１名　　スポーツ賞　個人７名　団体２
　　スポーツ優秀選手賞　個人１３名　団体１２
委員会：生涯スポーツ優秀賞　１名　スポーツ優良賞　１名　　スポーツ奨励賞　個人１９名　団体３

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	■ 達成できている	□ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	Ｈ２５に表彰規程の見直しを行った結果、選考基準が受賞の明確化につながってスムーズに審査できる。 また、受賞する選手・団体の励みになり、競技力の向上につがっている。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	A	A	A	B

評価委員意見

これがあることで励みになると思う。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	健康ウォーターマラソンスタンプラリーの開催	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	健康増進及び運動不足解消を目的に多くの町民の参加を募集し、町民の健康維持の一助となることを目的とする。			
事業の対象	２０歳以上の町民			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	22 千円	22 千円	11 千円

事業の実績・成果等（数値）	期　　間：平成２７年７月２２日（水）～平成２８年３月１３日（日） 場　　所：野辺地町屋内温水プール「サンビレッジのへじ」 参加者数：１６２名 野辺地町から仙台市までの距離（４００キロ）を完歩することを目標にし、自分のペースでプールの中を歩く。配布しているスタンプカードに当日歩いた距離を記入し、スタンプを職員からもらう。翌年３月実施期間終了後に最終結果を掲載した完水歩証を配布し、上位５位に記念品（施設無料券）を贈呈する。なお、参加者は施設使用料が４１０円から２１０円になる。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	町民がスポーツ活動を始めるきっかけになっており、普段施設を使用しない利用者が施設を活用してスポーツ活動に取組んでいる。 より多くの町民に参加してもらうために、事業の周知を強化する。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	A	A	A	B

評価委員意見

もっと周知を徹底して欲しい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民スポーツレクリエーション祭参加	担当者名	安村英彦

事業の目的・内容	広く県民にスポーツ・レクリエーション活動のばを提供し、県民一人ひとりの活動への参加意欲を喚起するとともに、県民の生涯を通したスポーツ・レクリエーション活動の実践を図り、もって健康で活力ある生活に資することを目的としている。			
事業の対象	野辺地町の各種レクリエーション団体が参加			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	23 千円	23 千円	23 千円

事業の実績・成果等（数値）	第８回青森県スポーツ・レクリエーション祭への参加 平成２７年７月４日（土）５日（日）　主会場：青森市ほか県内各所 参加競技（７団体５６名参加） ①グラウンド・ゴルフ競技　15名　②ゲートボール競技　9名 ③トランポリン競技　4名　④ふれあいボウリング競技　3名 ⑤マスターズ陸上競技　3名　⑥レクリエーションダンス競技　15名 ⑦ターゲット・バードゴルフ競技　7名

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	生涯スポーツについては、各団体において活動に積極的に参加しており非常に良い方向に進んでいると思われる。 このような催しにできるだけ当町の代表として参加してほしい。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	C

評価委員意見

団体、一般に対して、もっと周知を図ってほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	学校体育施設の開放促進	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	スポーツ活動の普及・振興を目的として町内小・中学校の体育館、校庭を児童・生徒が使用していない時間に開放する。 年間で使用する団体へは一年毎に申請書を提出してもらうこととしている。			
事業の対象	町民			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２７年度　年間利用 利用団体　１６団体 利用回数 若葉小学校　３２３回 野辺地小学校　４６０回 馬門小学校　６７回 野辺地中学校　１１７回 計　９６７回

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	説明：町体育協会加盟団体等のスポーツ団体が年間を通して体育館及びグラウンドを利用している。 課題：利用マナーが悪い団体が見受けられる。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	―

評価委員意見

利用者、団体のマナーについて啓発を活発にしてほしい。
もっと、利用者に規制して厳しくしてほしい。
利用者に使った後のゴミ等あとしまつをチェックできるようなチェック表を書いてもらってらどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	地域総合型スポーツクラブの検討	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	当町の各スポーツ団体との連携を強化し、地域住民にも理解を求め、それぞれが有する課題等の共有、解決を図りながら、町のスポーツの方向性を検討する。			
事業の対象	町民全般			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	スポーツ団体のスポーツに対する意識を調査し、町の体育・スポーツ行政が向かうべき方向性を検討するとともに、総合型地域スポーツクラブ設立に向けた意見聴取を行うため、平成２８年３月１０日に町スポーツ団体懇談会を開催した。 内容としては、総合型地域スポーツクラブの概要を説明し、各スポーツ団体にクラブ化したときのイメージをしてもらい、団体同士で懇談し、町のスポーツの課題を抽出した。

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	□ おおむね達成できている	■ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	各スポーツ団体の課題や意見を詳細に聞取りする必要がある。その状況を踏まえながら、クラブ化については慎重に検討しなければならない。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	D	D	C

評価委員意見

子どもたちの活躍の場、選択できる場の提供として必要である。
子どもの数が少なくなっているので推し進めてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	生涯スポーツの普及・振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	水泳教室開催業務	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	幼児・児童を対象に、安全かつ楽しく水泳し水に慣れること及び泳力技術向上を目的に前期と後期の二期にわたる水泳教室を開催する。 講師はウィング青森より２名が派遣されている。 参加料　幼児１，５００円　児童１，９００円（児童は入館料４００円含む） 募集定員人数 　前期　幼児　４０名　児童　６０名 　後期　幼児　４０名　児童　６０名			
事業の対象	幼児・児童			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	372 千円	372 千円	372 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２７年度実績　（毎週木曜日実施） 　前期　第１グループ　6/11～7/2　第２グループ　7/9～7/30 　後期　第１グループ　10/1～10/22　第２グループ　10/29～11/19 参加人数　前期　幼児　４０名　児童６０名 　　後期　幼児　４０名　児童５０名　　計　１９０名

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	説明：毎年リピーターで参加していただいている方が多く、高評価をいただいている。 課題：例年通りの日程で実施したが、後期の募集が定員に満たなかった。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	B	B	B	B	A

評価委員意見

　人口減少でスポーツ競技者も少なくなっている中でスポーツの選択が幅広く拡散しすぎるのではないか、成績重視を考えるならば、的を絞った取組みも必要ではないか。良くも悪くも難しい問題だと思う。
　今後も継続して欲しい。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ少年団への支援と育成	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容

子供がスポーツしやすい環境をつくり、スポーツを通して団体行動や仲間づくりに励む場を提供することで学ぶ機会を与える。

収入			支出		
	町補助金	350,000円		登録料	206,700円
	県補助金	73,000円		負担金	12,000円
	負担金	213,820円		補助金	334,000円
	繰越金	14,066円		事業費	79,720円
	雑入	31円		派遣費	3,000円
				手数料	756円
合計		650,886円	合計		636,176円

事業の対象：小・中学生、指導者

事　業　費

年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
金　額	553 千円	637 千円	564 千円

事業の実績・成果等（数値）

町スポーツ少年団の事務局として、団員の登録申請や各スポーツ少年団大会申込をおこなう。また、団員登録終了後各単位団に大会参加料や活動費にあててもらう為、補助金を配布する。

平成２７年度登録
団数　１０団　　登録者数　２２１名
指導者数　３７名　（うち有資格者指導者数２９名）

事業の評価（自己評価）

必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価：B　優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

説明：町としての登録団員数・指導者数は年々減少しているが各単位団の活動は活発である。平成２７年度は各単位団への団割補助金のほか、団員数に応じた補助金も配布した。
課題：平成２７年度より各単位団へ有資格指導者を２名以上登録することが義務付けられたため、指導者への講習会参加を促進する必要がある。

事業の方向性

□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見

スポーツ少年団みたいな、マーチングとかの文化少年団を立ち上げれば例えば、野小の子どもたちの中からもやってみたい子もいるはず、スポ少のような文化少年団。
もし、受入れ先としたら野辺地吹奏楽団とかになるのかな。
芸術少年団とか、幅が広がってくると思う。
指導者への講習会参加を促進してほしい。
指導者が資格とるためにはお金がかかるので、その面で補助していただければ助かると思う。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町営球場開設記念兼ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ旗奪取中学校野球大会の支援	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	野辺地中学校をはじめ、近隣町村の中学校も招待し、大会を開催する。 野球競技を通じて、各校の交流を図るとともに、チームの団結力及び競技力向上を目指す。			
事業の対象	中学生			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	16 千円	16 千円	16 千円

事業の実績・成果等（数値）	日　時：平成２７年４月２５日（土）、２６日（日） 場　所：野辺地町営球場 参加校：野辺地中、東北中、上北中、千歳中、六ヶ所第二中、泊中 横浜中　７チーム 優勝・・・東北中　　準優勝・・・野辺地中

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	シーズン序盤のチーム力を図る大会として、各校の参加意欲の高さが見受けられるが、少子化により部員数の減少がみられ、チームを組めない学校があるので、運営面について協力団体と協議が必要である。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	B	B	B	B	B

評価委員意見

一番最初の大会で３０回を迎えている、時期的に中体連前の力だめしということもあり、是非、継続して頑張ってもらいたい。

事務事業評価シート

施　策　名	青少年スポーツの振興	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県小学生スキー大会の開催	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	スキーを通じて児童の健全育成及びスキー技術や資質の向上を目標とし、スキーの町、野辺地町を全県的に広報しながら、実行委員会を中心に町をあげて応援、実施するものである。			
事業の対象	県内小学生３～６年			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	1,856　千円	1,854　千円	1,850　千円

事業の実績・成果等（数値）	期　　日：平成２８年２月６日（土）、７日（日） 場　　所：国設野辺地まかど温泉スキー場 競技種目：距離競技、大回転競技、リレー競技 参加校　３９校　　参加人数　１５８名 12/8　第１回実行委員会 12/22 陸上自衛隊第５普通科連隊と支援に関する協定書締結 1/29　第２回実行委員会 3/9　第３回実行委員会

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	少子化により参加者が減少傾向にあり、リレーチームも組めない状況にある。しかし、新たに３年生から出場できるようにし、リレー競技もオーダー人数を減らしてより多くの子ども達が参加できるよう見直した。参加人数が減少するなかで、事業費をどのように工夫していくか検討しなければならない。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	B	A	A	A	A

評価委員意見

リレーチームが組めないなか、本当に現場は頑張っている。
もっともっと盛り上がってほしい。
今後も継続してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	青森県民駅伝競走選手強化支援	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	県主催の市町村対抗駅伝競走大会である。各学校の陸上部、スキー部顧問、アスリートクラブ等で実行委員会を組織し、参加対象者の中学生、高校生、一般選手を育成して、町選手団として大会に臨む。		
事業の対象	中学生・高校生・一般		
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	531 千円	655 千円	650 千円

事業の実績・成果等（数値）	期日：平成２７年９月６日（日）青森市 結果：総合の部　８位　　町の部　４位 合同練習会　6/27、7/11、8/1　　選手選考会　7/18、7/22 現地試走会　8/15、8/16、8/30 6/3　第１回実行委員会 7/24　県へ選手名簿提出 8/20　市町村代表者会議 9/1　第２回実行委員会兼付添者会議 10/15 第３回実行委員会

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題	選手、関係者が一丸となり団結して大会に臨めたが、昨年より順位が下がった。高校生及び一般選手は、なかなか合同練習会に来れないが、多様な年代の選手の交流は、競技を通じて将来への目標や夢を与えていると考えられ、メディアを通じて、町に活気を与えていると実感している。

事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	A	A	A	B

評価委員意見

パブリックビューイングなどどうか。やっても良いと思う。
テレビを見ていて非常に残念なのが上位2チームくらいが映っている。
監督から聞いたところ、今回のチーム編成は県外からの大学生とかを入れないで地元で活躍している人たちで編成したらしい。
考え方でしょうけど、勝つためには成績の良い選手を入れるべきだが、日々、頑張っている人を重視した。
とても頑張っている。
町にとても活気を与えている。
町の部３位と４位では全然違う。

事務事業評価シート

施　策　名	競技スポーツの推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	町体育協会活動支援	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	当町のスポーツ振興の中核を担う体育協会を支援し、町民の体力・競技力を育てるとともに、スポーツにより町の活性化に資するものである。			
事業の対象	一般町民			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	740 千円	740 千円	1,048 千円

事業の実績・成果等（数値）	第３８回上北郡総合体育大会参加支援 平成２８年５月３０日（土）、３１日（日）　おいらせ町ほか １３競技参加　優勝種目：バスケットボール（男）、柔道 ７町村中６位 第７１回市町村対抗青森県民体育大会参加支援 平成２８年８月１日（土）、２日（日）、８日（土）、９日（日）　十和田市ほか １１競技参加　優勝種目：柔道 ３０町村中１６位

事業の評価（自己評価）			
必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）			
☐ 十分必要である	■ おおむね必要である	☐ あまり必要でない	
有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）			
☐ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	☐ あまり寄与していない	
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）			
☐ 十分できている	■ おおむねできている	☐ できていない	
目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）			
☐ 達成できている	☐ おおむね達成できている	■ 達成できてない	

自己評価	C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
評価説明及び考察、課題	各大会を目標に活動に励んでいるため、スポーツ活動が活性化されている。単会によっては、競技に対する意識の違いが明確であり、団体が衰退しないよう世代交代が必要とされる。	
事業の方向性	☐ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する　☐ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	C	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		C	C	C	C	C	B

評価委員意見

成績が伸び悩んでいる感じがする、世代交代が進むよう頑張って継続してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	スポーツ情報の充実	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツ史発行に向けて記録等の情報収集及び保存	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	スポーツの記録等の収集・保存要領（平成９年制定）のもと、スポーツ史発行に向け各団体の情報収集を行う。 のへじスポーツ史　（町制１００周年記念誌）　平成９年８月２８日　発行			
事業の対象	学校、体育協会、スポーツ少年団			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	学校、体育協会、スポーツ少年団へ情報提供を依頼し大会出場記録等をいただき、今後スポーツ史続刊を発刊する。 ・年２回各団体へ依頼 前期分　１１月下旬 後期分　３月下旬

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	説明：平成９年スポーツ史発刊以降、継続して情報収集を行っている。 課題：平成２９年度に町制１２０周年となるためスポーツ史を発刊することとなる。発刊は１００周年以降行っていないので２０年分の記録誌となる。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	ー

評価委員意見

データで残すなど後世へつなげるよう大切にしてほしい。
ホームページで閲覧できれば良いと思う。
記録として必要なので作ってほしい。
保存方法や活用のされ方も検討してほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	スポーツ情報の充実	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	スポーツカレンダーの発行	担当者名	荒谷成美

事業の目的・内容	スポーツ推進委員名簿・体育協会名簿・スポーツ少年団名簿・体育施設の情報・大会予定日等を掲載することで、町民の意識を高め、よりスポーツを身近に感じてもらう。			
事業の対象	町民			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	0 千円	0 千円	0 千円

事業の実績・成果等（数値）	平成２６年度より毎戸配布から施設及び町ＨＰへの掲載としている。 　３月下旬　各団体へ情報提供依頼 　４月中旬　情報整理、カレンダー作成準備 　５月１日　町内各施設へ設置、町HPへ掲載 設置場所 　町内公共施設　計４００枚 　小・中学校　各１枚

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	□ 十分必要である	■ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	□ 十分できている	■ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	説明：スポーツを身近に感じてもらうことが出来ている。 課題：町民へより周知するために設置場所及び部数の検討をする。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	B	B	B	B

評価委員意見

今後も継続してほしい。
取り組み自体はＡである。
近所なので、車が多い時などカレンダーで把握している。

事務事業評価シート

施　策　名	社会体育施設・設備の整備・運営	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	体育施設の総合的な修理修繕と運営	担当者名	安村英彦

事業の目的・内容	住民が気軽にスポーツを楽しむことが出来るよう、使いやすく、快適性のある身近なスポーツ施設整備の促進に努める。そのため、スポーツ施設の整備充実を図る。			
事業の対象	社会体育施設（スポーツ施設）			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	8,028 千円	3,129 千円	31,023 千円

事業の実績・成果等（数値）

各社会体育施設修繕　　平成２７年度

支出	町立体育館	修繕	855,686円	備品購入	32,999円
	運動公園	修繕	1,387,649円	備品購入	96,120円
	プール	修繕	885,426円	備品購入	2,035,800円
	体育センター	修繕	3,240円		

①野辺地町立体育館
施設内修繕（障がい者トイレ・防球ネット・施設鍵、照明交換ほか）
備品：バレーボールネット　１張
②野辺地町運動公園
施設塗装、東屋屋根、競技場フェンス撤去修繕・草芝刈機備品修繕等
備品：テニスネット　２張
③屋内温水プール
施設内機械修繕等
備品：プールフロア２５台　プールカバー１式

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている

評価説明及び考察、課題

成果：予算の範囲内で工事・修繕・備品購入等が予定どうり実施できた。
課題：本年、体育施設において修繕等を計画的に実施しているが、老朽化ですべての施設において大規模な工事等が必要である。

事業の方向性

■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する
□ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見

公式の大会など開催できる施設として改修してほしい。
災害時の避難所としての役割としても考えた整備をしてほしい。
修繕、工事においては、町内の業者を優先して使ってほしい。
今後、新築を考えているならば、総合的に使えるような施設にしてほしい。

事務事業評価シート

施　策　名	社会体育施設・設備の整備・運営	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	体育施設利用団体会議開催による有効活用意見の聴取	担当者名	濵中太一

事業の目的・内容	限られたスポーツ施設をより多くの団体が利用できるよう調整して、年間の割当てを決定する。			
事業の対象	体育協会、スポーツ少年団、中学校部活動、高等学校部活動			
事　業　費	年　度	平成　26　年度決算	平成　27　年度決算	平成　28　年度予算
	金　額	0　千円	0　千円	0　千円

事業の実績・成果等（数値）	○割当団体 町立体育館　１４団体 青少年体育センター　８団体 運動公園　８団体

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	□ 十分寄与する	■ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	B	優れた取組みがいくつかあり、成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	使用割当てを決めることにより、円滑に各団体が利用できている。しかし、利用時間を守らなかったり、ゴミを片付けなかったりとマナーの悪さが目立つので、皆が気持ちよくスポーツ活動ができるよう指導しなければならない。	
事業の方向性	□ さらに重点化する　■ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	B	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		B	B	B	B	B	B

評価委員意見

利用者、団体のマナーについて啓発を活発にしてほしい。
もっと、利用者に規制して厳しくしてほしい。
利用者に使った後のゴミ等あとしまつをチェックできるようなチェック表を書いてもらってらどうか。

事務事業評価シート

施　策　名	キャリア教育の推進	担当課名	社会教育・スポーツ課
事務事業名	チャレンジショップ	担当者名	新渡秀嗣

事業の目的・内容	これからの地域を担う児童・生徒を対象に「自ら考え、実践する力」を育むことを目的とし、キャリア教育の支援を支えるため、持続可能な地域社会の構築とコミュニケーション能力の育成を目的に実施する。			
事業の対象	小学３年生から中学生			
事　業　費	年　度	平成 26 年度決算	平成 27 年度決算	平成 28 年度予算
	金　額	商工会予算 千円	〃 千円	〃 千円

事業の実績・成果等（数値）	９月２６日（土）　９：００～１４：００ 「ずっぱど・わっかど産業まつり」内で、子どもたちがグループ゜に分かれて企画から販売までを子どもたちが行った。（ピザ、ワッフル） また、当日会場で使える商品券を報酬として配布した。 事前の研修では、販売する商品の決定や役割分担、試作を行った。 参加人数　９名（小４：２名、小５：５名、小６：２名／ 野小：４名、若葉：５名／男１名、女８名）

事業の評価（自己評価）	必要性（町民ニーズに変化があり、事業を行う必要があるか。）		
	■ 十分必要である	□ おおむね必要である	□ あまり必要でない
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか。）		
	■ 十分寄与する	□ おおむね寄与する	□ あまり寄与していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）		
	■ 十分できている	□ おおむねできている	□ できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか。）		
	□ 達成できている	■ おおむね達成できている	□ 達成できてない

自己評価	A	優れた取組みが多く、十分成果が上がっている
評価説明及び考察、課題	成果：販売体験だけでなく、企画の段階から事業に携わることで、子どもたちは、商業の楽しさや苦労、達成感を味わうことが出来た。 課題：子どもたちの主体的な活動意欲を生み出すためにも、商工会との連携を継続していくことが今後の人財育成につながるものと考える。	
事業の方向性	■ さらに重点化する　□ 見直しのうえ継続する　□ 事業の縮小を検討する □ 休止、廃止を検討する　□ 事業完了	

事務評価委員の評価

総合評価	A	千葉委員	前田委員	赤垣委員	高田委員	浅野委員	H26参考
		A	A	A	A	A	B

評価委員意見

子どもたちにこういう体験の機会を与えられることは非常に良い事だ。
是非、今後も続けてほしい。